

CREATIVE
PLATFORM
NEWS

vol.

1

CREATIVE
PLATFORM

SPECIAL INTERVIEW

林 千晶

CHIAKI HAYASHI

太刀川 瑛弼

EISUKE TACHIKAWA

CREATIVE PLATFORM NEWS

とは

このたび、大分県ではクリエイティブな手法による新たな産業創出を目指し「平成28年度 クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」を始動しました。本事業は、優れた技術やノウハウを持つ県内の企業と、豊かな発想や感性を持つクリエイターが交流し、コラボレーション(協働)することで、競争力の高い商品・サービスの開発や、新規マーケットの創出につなげることを目的としています。本年度は公式Webサイト『CREATIVE PLATFORM OITA』と、交流イベント『CREATIVE PLATFORM CAFÉ』を通じて、全国の事例をご紹介するとともに、大分県におけるクリエイティブ産業のあり方や、

その可能性を考察します。

本紙『CREATIVE PLATFORM NEWS』では、本事業の最新の情報と、全国各地でクリエイティブを活用した事業に取り組む方々へのスペシャルインタビューをお届けします。

9月29日(木)が第1回目となる交流イベント『CREATIVE PLATFORM CAFÉ』では、本紙でご紹介する方々をゲストに迎え、トークイベントと交流会を開催します。大分のクリエイティブを刺激する情報の発信・共有の場となるよう、毎回異なるテーマや演出での開催を予定しております。ぜひお問い合わせのうえご参加ください。

- 本事業の最新情報は、公式サイト『CREATIVE PLATFORM OITA』およびFacebook、twitterからもご覧いただけます。
- 公式Webサイト『CREATIVE PLATFORM OITA』(<http://creativeoita.jp>)は9月29日(木)に公開予定です。それまでの間は9月29日(木)開催予定の交流イベント『CREATIVE PLATFORM CAFÉ』の申込みサイトとなっています。

SPECIAL INTERVIEW 1

林 千晶

株式会社ロフトワーク 代表取締役

林 千晶さん率いる株式会社ロフトワークは、「クリエイティブを流通させる」をミッションに業種・業界を問わず、多岐にわたる事業を手がけるクリエイティブエージェンシーです。今回は、ロフトワークに『CREATIVE PLATFORM OITA』のサイト制作を依頼し、そのプロセスも含めて公開していくことにしました。

聞き手：山出淳也



山出：今日は『CREATIVE PLATFORM OITA』のWebサイトをロフトワークさんに一緒に作っていただきたくて、お願いに伺いました。

林：面白い相談をありがとうございます。エネルギーや可能性を強く感じるし、大分県がこれから大きく変わっていく予感がしています。

秋元：ロフトワークもいま、全国の中小企業とプロデュースチームのコラボレーションの支援にWebサイトを活用し、リアルなコミュニティを促進するプラットフォームを制作しています。今回のお話を伺って、全国に同じような問題意識が生まれているんだと実感しました。でも、各地で同様の取り組みが進められているのに、まだ取りまとめる仕組みがないんですね。

山出：おっしゃる通りです。プロデュースに重要なのは考え方ですね。成果物にお金を払うのではなく、プロセスにこそ価値があるんだと思っています。このWebサイトは、新しいものの見方との出会いを誘発させながら、事業の進捗と

ともに成長するものを目指したいと思っています。また、リアルな場としてはトークイベントや交流会の開催も予定しています。

林：面白そう。交流会も、たとえば県庁のセミナーをハックしちゃうとか、まるで演劇みたいに始めちゃうとか、そういう演出があるといういろんな人が関わる引き金になって盛り上がりそうですね。



左から秋元さん、寺井さん、柳川さん、林さん

山出：それはいいですね。Webサイトにしても交流会にしても、一方向からだけでなく、多方向から。真ん中に向かうだけでなく、外側にもどんどん広がっていくような関係性を作っていきたいと思っています。そのために、行政や業界の概念をちょっとだけ

変えるようなことも必要なのかなと思っています。

林：飛騨で『(株)飛騨の森でクマは踊る』という、クリエイティブの力で地域産業や新しい森林活用モデルを創出する会社を官民連携で立ち上げたのですが、「Fab」とか「クリエイティブ」とか一般の方には耳慣れない言葉が多いし、はじめは怒られることも多くて。でも、市長が「君たちの言っていることは、ほとんどわからない。でも今までになく、わくわくしている」と言ってくださいました。山出さんは別府とか国東とか、いろんな土地で活動をするなかで心が折れるような大変なこともあるんじゃないでしょうか？

山出：怒られることは多いですね。でも折れませんよ。僕はアーティストだから、自分が絶対に見たいと思うものを実現したいという気持ちが強いんです。

林：なるほど、ビジネスとアートって、ちょっと似てるのかもしれないね。はじめる前はうまく説明できないけれど、異なる世界を見てみたいという気持ちが強いというか。ビジネスもアートも、はじめは具体はな

くてもイメージはあって、そこに向かって歩いていく感覚があります。

うちが2012年に始めたデジタルものづくりカフェ『FabCafe』も、やっとインパクトが見えてきたところ。3Dプリンターでオリジナルのチョコレートを作ったり、ノートパソコンにレーザーカッターで刻印を入れたり、4年経ってやっと「自分だったらこういうふうに使いたい」って考える人が増えてきました。やっぱり馴染むには4〜5年かかるのかもしれない。

寺井:ロフトワークは飛騨や石垣島でもプロジェクトを展開していますが、地域でのプロジェクトの場合は、ずっとそこにいる地元の人が受け止めて、初めて成立するということを実感しました。

山出:わかります。そもそもそこにいる人たちは、その土地から離れられないんですよね。土地と人との結びつきを大切にしがら

ら、新しい流れとうまく繋げることができたらと思っています。

林:そう考えると、プロデューサーは外の人の方がやりやすいのかもしれない。外の人だからこそその視点やアイデアが起爆剤になることもありますよね。

山出:このサイトが、そのためのアイデアが集まる存在になるといいなと思っています。よろしくお願いします。

林さんとお話していると、クリエイティブなことを本当に愛していて、心から楽しんでいらっしゃるのが伝わってきます。このわくわく感が、次々とソーシャルイノベーションを生み出しているのかもしれない。『CREATIVE PLATFORM OITA』の公開は9月29日(木)から。このミーティングからどんなサイトが生まれるのか、どうぞご期待ください。



林 千晶 (はやし・ちあき)

ロフトワーク共同創業者、株式会社ロフトワーク代表取締役早稲田大学商学部、ポストン大学大学院ジャーナリズム学科卒。花王を経て、2000年にロフトワークを起業。Webデザイン、ビジネスデザイン、コミュニティデザイン、空間デザインなど、手がけるプロジェクトは年間550件を超える。2.5万人のクリエイターが登録する「loftwork.com」、世界5カ国に展開するデジタルものづくりカフェ『FabCafe』、素材に向き合うコワーキング施設『MTRL』を運営。MITメディアラボ所長補佐、茨城県北芸術祭コミュニケーションディレクターなどを務める。森林再生とものづくりを通じて地域産業創出を目指す官民共同事業体「株式会社飛騨の森でクマは踊る」を岐阜県飛騨市に設立、代表取締役社長に就任。

ロフトワークのCreative Action.1

loftwork.com



ロフトワークの運営する日本最大級のポートフォリオサイト。2万5千人を超えるクリエイターが登録し、サイト上で自分の作品を発表しています。登録者には、大容量のストレージや多彩なコミュニケーション機能などが無料で提供されます。ロフトワークは、このサイトに登録したクリエイターとのコラボレーションによってさまざまな制作や企画を行っています。

ロフトワークのCreative Action.2

Rooots 名産品リデザインプロジェクト



国際芸術祭の開催をきっかけに生まれた、Webコンペによる地域産品のリデザインプロジェクト。「loftwork.com」を通して世界中のクリエイターを対象に地域産品のデザイン案を募集し、選ばれたクリエイターとメーカーが協働して商品を生み出します。リデザイン前と比較して、多いもので売り上げ20倍増など、大きな成果を挙げられました。

ロフトワークのCreative Action.3

MORE THAN プロジェクト



日本発の優れた商材やサービスを海外へ届けたい中小企業と、プロジェクトチームのビジネス機会創出・魅力発信を経済産業省の補助事業として実施するプロジェクト。ロフトワークは事務局として販路開拓のサポートをイベント企画やWebなどクリエイティブを通じて行い、2014年度は全16チーム中15チームが商談を成立させ、海外進出の道を歩んでいます。

SPECIAL INTERVIEW 2

太刀川 瑛弼

NOSIGNER株式会社 代表取締役

災害時に必要な知恵や知識をいち早く共有するためのWebサイト『OLIVE』の立ち上げをはじめ、被災地の復興支援や地域振興など、さまざまなソーシャルイノベーションに取り組む NOSIGNER 株式会社の代表を務める太刀川 瑛弼さんに、デザインの社会的意義やデザイナーの役割について伺いました。

聞き手: 山出淳也

山出:太刀川さんがデザインのお仕事をされる上で、大事にしていることは何ですか？

太刀川:「誰とやるか」っていうことですね。最近プロデュースさせていただいた、JR東日本のリデザインプロジェクト『おやつTIMES』では、陸前高田市と青森市のご出身の若い女性職員2人がご担当でした。彼女たちは、自分の実家や地元ピンチに対して変革を起こそうと、熱を持って取り組んでいる。つまり当事者なんですよ。この商品を先月リリースしたところ、当初見込みの3倍も売れているそうです。これは僕の作家性だとかデザインというよりは、彼女た

ちの熱にふさわしい形がはまって結果が出た事例だと思います。

僕は、強い思いを持った人のためにとっておきの武器を作ってあげるような、そういうデザインのあり方が好きなんです。

山出:作り手の思いを乗せるということですね。かたや、消費者にとって価値があるのは、今必要なものがすぐ届くということで、ビジネスにとってスピード感はすごく重要だと思っています。太刀川さんは『OLIVE』プロジェクトでは、それを見事に実践されましたよね。



太刀川:ありがとうございます。東日本大震災が起こったとき、災害に関する全てのアイデアが集まるサイトが必要なんじゃないかと思い『OLIVE』というサイトを立ち上げました。たくさんの方がどんどん投稿してくれて、約3週間で約1000万人に拡散し、大きく広がっていきました。僕はそのとき、こんなにも多くの人々がクリエイティビティを発揮していることに、すごく感動しました。

時間が経って物資が行き渡ると、今度は防災の情報が求められるようになったので、サイトの情報を元に8月に書籍を発行しました。僕はいろんなアイデアが詰まったサ

バイバルキットみたいな本を作りたいかったです。それから約2年後に、防災キットを作りたいという宮城県 회사から連絡をいただきました。その会社は工場機器の卸が専門で、BtoC商品の製造・流通は初めてでした。でも被災の経験はあるから、社長も社員もその必要性を強く感じていた。そういう熱意のある人たちに出会えたことで防災キット『THE SECOND AID』が生まれました。

昨年は、電通と組んで『東京防災』という本を作りました。防災にもっと興味と危機感を持ってほしくて、そのためのしかけを本の中で展開しています。初版で750万部発行し、東京都の全世帯に配布されました。たぶん行政史上で最大級の発行部数でしょうね。

山出：『OLIVE』を起点に、いろんな人と繋がって、ひとつのムーブメントが生まれていったんですね。

太刀川 瑛弼 (たちかわ・えいすけ)

NOSIGNER株式会社代表取締役
慶應義塾大学大学院理工学研究科修了。在学中の2006年にデザインファームNOSIGNERを創業。ソーシャルデザインイノベーション(社会に良い変化をもたらすためのデザイン)を生み出すことを理念に活動中。建築・グラフィック・プロダクト等のデザインへの深い見識を活かし、複数の技術を相乗的に使った総合的なデザイン戦略を手がけるデザインストラテジスト。Design for Asia Award 大賞、PENTAWARDS PLATINUM、SDA 最優秀賞、DSA 空間デザイン優秀賞など国内外の主要なデザイン賞にて50以上の受賞を誇る。災害時に役立つデザインを共有する「OLIVE PROJECT」代表。2014年、内閣官房主催「クールジャパンムーブメント推進会議」コンセプトディレクターとして、クールジャパンミッション宣言「世界の課題をクリエイティブに解決する日本」の策定に貢献。



太刀川：いろんな手法を持っている人と繋がると、個人の表現としての強度をはるかに超えたものが生まれるんですよ。それは、もはや僕がデザインしたものとは言えないのかもしれない。僕らデザイナーは媒介であって、作るのはあくまで何かを変えたいと思っている人たちなんです。それを全力で応援することでいい変化を生み出して、ムーブメントを起こしていきたいですね。

太刀川さんの目標は「いいデザイナーになること」。それは、カッコいいプロダクトを生み出すことではなく、いい媒介でありたいという願いです。たとえそこに依頼者がいなくても、社会にとって必要だと感じたらすぐに行動する。そのデザイナーとしての強い信念が『OLIVE』プロジェクトを生み、社会の共感を得てムーブメントを起こした。そこにデザインの大きな可能性を感じました。

太刀川 瑛弼のCreative Action.1

OLIVE プロジェクト



RT DIRECTION & GRAPHIC DESIGN: EISUKE TACHIKAWA (NOSIGNER) MANAGEMENT: OLIVE PROJECT, OLIVE SUPPORTER

被災地の生活を支援するデータベース。東日本大震災発生40時間後に立ち上がり、命を救うための知識が書き込まれました。ここに寄せられた情報が元になり、東京都が750万部発行し、都内各家庭に無料配布した防災ブック『東京防災』など、防災にまつわる商品や書籍が生まれました。

太刀川 瑛弼のCreative Action.2

おやつTIMS



CREATIVE DIRECTOR: EISUKE TACHIKAWA (NOSIGNER) ART DIRECTOR: EISUKE TACHIKAWA (NOSIGNER), YUZURU ODOO (ODOO DESIGN) PHOTO: SUGURU ARIGA

JR東日本リテールネットによる、東日本の地産品を使ったオリジナルおやつのおやつプロジェクト。太刀川さんを総監督に各分野の専門家集団によるディレクションユニットが結成され、地域の生産者をサポートしながら、作り手の想いを消費者に届ける商品が生み出されました。販売から1ヶ月で、当初見込の3倍を売り上げました。

太刀川 瑛弼のCreative Action.3

THE SECOND AID



ART DIRECTION: EISUKE TACHIKAWA (NOSIGNER) PHOTO: TAKESHI KAWANO (NOSIGNER)

A4サイズのコンパクトな箱に、災害時の必需品15点と防災ハンドブックを収納。リビングに置きたくなるほどおしゃれなデザインにすることによって、災害時に多く見られた「防災セットをしまいこんでいたため、いざという時に取り出せなかった」という問題を解決しました。仙台市の高進商事との共同開発。



「大分県版クリエイティブ産業」キックオフイベント

CREATIVE PLATFORM CAFÉ VOL.1 開催決定!

毎回クリエイティブ産業に関わる方々をゲストに迎え、全国の事例を学び、大分県における可能性を探る交流イベント「CREATIVE PLATFORM CAFÉ」。第1回目は本紙でご紹介した林さんと太刀川さんをお招きします。また、西垣淳子さん(経済産業省 クリエイティブ産業課長)をお迎えし、国のクリエイティブ産業の取り組みについてもご紹介いただきます。ゲストを交えての交流会も開催します。どうぞ奮ってご参加ください。

■ トークイベント

日時：9月29日(木) 15:00～17:00
場所：大分県立美術館 1F 展示室 A [大分市寿町2番1号]
ゲスト：林 千晶(株式会社ロフトワーク)、太刀川 瑛弼(NOSIGNER 株式会社)、西垣淳子(経済産業省 クリエイティブ産業課)
定員：120名(予約優先) 参加費：無料

■ 交流会

日時：9月29日(木) 17:30～19:30(予定)
場所：オアシスタワーホテル 21階 the21 [大分市高砂町2番48号]
定員：60名(要予約) 参加費：5,000円

お申込みフォーム

<http://creativeoita.jp>



募集！ 事業のお悩みを、クリエイティブで解決！『クリエイティブ相談室』

本事業の公式 Web サイト『CREATIVE PLATFORM OITA』では、事業にクリエイティブを取り入れてみたい方からのご相談を受け付けています。新規事業立ち上げに関するお悩みや、人材、資金、企画、営業など、あらゆる課題をクリエイティブの力で解決してみませんか？ ご相談の内容は、『CREATIVE PLATFORM OITA』内のコーナー『クリエイティブ相談室』にて公開いたします。

*ご相談者さまは、公開前に必ず原稿の確認をお願いします。*本事業に際して知り得た情報で、ご相談者さまが公開を希望されない事項に関しては第三者に提供・開示・漏洩いたしません。

本紙掲載情報およびイベント参加のお申し込み・お問い合わせ NPO法人 BEPPU PROJECT (担当 松田・田島) 営業時間：月～金 9:00-18:00 tel: 0977-22-3560

発行・編集 発行元：特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 〒874-0933 大分県別府市野口元町2-35 菅建材ビル2階 url: <http://www.beppuproject.com>

発行人：山出淳也(特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 代表理事)

*本紙は「平成28年度クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」の最新情報をお伝えする広報紙です。本事業はNPO法人 BEPPU PROJECT が大分県から業務委託を受けて企画・運営しております。